



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第7号  
(7月3日～7月21日)

令和3年7月2日発表  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

**果実肥大は順調！**  
**良品生産に向け、着果量の点検を！！**  
**ハダニ類など病害虫防除を万全に!!!**

## I 概要

7月1日時点の果実肥大は平年並から平年を上回っている。

摘果作業は終盤を迎えているが、着果量がまだ多い園地もある。仕上げ摘果を終えていない園地では、できるだけ早く適正な着果量とする。仕上げ摘果を終了した園地では、必ず見直しを行う。

「7月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月15～16日頃に行う。散布むらが生じないように基準散布量を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

マメコバチの活動終了後の巣箱は7月上旬頃に回収し、家屋や小屋の軒下などにまとめて保管する。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 磯辺 慶
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）近藤 幹三 内線 4967

## II りんご生産情報

### 1 生育、作業の進み、病害虫の動き

#### (1) 果実肥大

各品種とも7月1日時点の果実肥大は平年並から平年を上回っている。

#### ○果実肥大

(7月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	5.2	5.5	4.7
	平 年	4.7	4.9	4.2
	前 年	5.2	5.5	4.3
	平年比	111	112	112
青森市浪岡 (東青地域県民局)	本 年	5.0	-	4.3
	平 年	4.5	-	3.8
	前 年	4.7	-	4.1
	平年比	111	-	113
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	5.3	4.9	4.2
	平 年	4.8	4.6	4.0
	前 年	5.2	5.0	4.1
	平年比	110	107	105
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	4.8	4.7	4.3
	平 年	4.7	4.8	4.0
	前 年	4.9	4.9	4.2
	平年比	102	98	108
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	5.6	5.1	4.4
	平 年	4.5	4.4	3.9
	前 年	4.8	4.5	3.9
	平年比	124	116	113

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

#### (2) 作業の進み (6月30日現在)

ふじの摘果作業、袋かけは終盤を迎えている。

徒長枝整理が行われている。

## (3) 病害虫の動き

(6月30日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	葉上病斑が初発 (本年：黒石6月25日、平年：黒石6月22日)
褐斑病	感染継続中
腐らん病	粗皮感染が始まる
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉発病葉率(ふじ) (本年：黒石6月30日38.1%、平年：黒石6月30日36.0%)
モモシクイガ	越冬世代成虫の羽化及び産卵継続中
ナシヒメシクイ	第1世代成虫の羽化継続中
リンゴハダニ 及びナミハダニ	卵～成虫が混在。幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモン ハマキ	越冬世代成虫の羽化ほぼ終了 (成虫誘引終息 平年：黒石7月6日)
キンモンホソガ	第2世代幼虫主体
クワコナカイガラ ムシ	越冬世代成虫出現、まもなく産卵始まる

## 2 作業の重点

## (1) 摘果

摘果作業は終盤を迎えているが、着果量がまだ多い園地もある。摘果の遅れや成らせすぎは、玉伸びだけでなく花芽形成に悪影響を及ぼすので、仕上げ摘果を終えていない園地では、できるだけ早く適正な着果量とする。仕上げ摘果を終了した園地では、必ず見直しを行う。

なお、地域や園地によっては中心果の欠落など障害が見られているので、果実の形質を見極め、中心果の形質が悪い場合は、側果の中から形質の良いものを残す。また、結実量が少ない場合は、樹勢調節のために発育や果形の悪い果実でも残すようにする。

降ひょうによる被害を受けた園地では、傷の有無を確認し、2mm以上の大きい傷のあるものは摘果し、標準着果量を守り、過着果にならないように注意する。また、結実量が少なく、標準着果量を確保できない場合は、樹勢調節のために比較的傷の浅い果実は残すようにする。なお、袋かけを計画していても被害のひどい場合は無袋とする。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星 ・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21 ・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

(2) 袋かけ

ふじは、有袋にすることにより、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、周年販売する上で必要であるので、経営状況に配慮しながら、有袋栽培に積極的に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終わるようにする。

有袋栽培では、すす斑病やクワコナカイガラムシの防除対策を徹底する。

(3) 有袋栽培におけるすす斑病対策

袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあげ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するようにする。毎年のように発生が見られる園地では、薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行う。その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に、袋かけを予定している樹を対象に、有効な薬剤による特別散布（実洗い）をしてから行う。

(4) 「7月半ば」の薬剤散布

「7月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月15～16日頃に行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないよう基準散布量を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

前年にシンクイムシ類の被害がなく、周辺に放任園など発生源の見られない園地で、「7月初め」にピレスロイド剤を使用した場合は、今回の「7月半ば」のシンクイムシ類防除剤を省略できる。

「7月半ば」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	7月15～16日頃	アントラコール顆粒水和剤	500倍
弘前		又はパスポート顆粒水和剤	1,000倍
三戸		又はオキシラン水和剤	500倍
		又は有機銅剤	
		〔キノンドー顆粒水和剤	1,000倍〕
		オキシンドー水和剤80	1,200倍

アブラムシ類の発生の多い園地では、発生に応じて、ウララDF4,000倍、キラップフロアブル4,000倍、トランスフォームフロアブル4,000倍、コルト顆粒水和剤6,000倍、バリアード顆粒水和剤4,000倍、ダントツ水溶剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍のいずれかを散布する

炭疽病の発生の多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、パスポート顆粒水和剤、オキシラン水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。なお、伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

輪紋病のいぼ皮病斑が多発している園地では、オキシラン水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

褐斑病の多発が懸念される場合は、アントラコール顆粒水和剤、パスポート顆粒水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

(5) 黒星病対策

現地での発生は少ないが、りんご研究所の殺菌剤無散布の県予察圃における黒星病の発病葉率は平年より高く推移している。気温が高くなると黒星病の発生は一時的に停滞するが、今後の感染源を減らすため、被害葉・果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(6) 腐らん病対策

本年は、腐らん病の発生が目立っている。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、泥巻き法か削り取り法のいずれかの処置を行う。

粗皮感染による胴腐らんの発生が多い園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(7) 斑点落葉病対策

高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、「7月半ば」にポリオキシシ AL水和剤1,000倍も使用する。

ただし、ポリオキシシ AL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(8) 褐斑病対策

前年に発生が多かった園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

(9) ハダニ類対策

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルはリンゴハダニだけの適用、マイトコーネフロアブルはナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○

○：適用する、×：適用しない

(10) リンゴコカクモンハマキ対策

発生の多い園地では、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して、適期にサムコルフロアブル10の5,000倍、エクシレルSE5,000倍、テッパン液剤2,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍又はディアナWDG10,000倍のいずれかを散布する。

(11) クワコナカイガラムシ対策

成虫が大枝の切り口や木の空洞部周辺に集まるので、見つけ次第ブラシなどでつぶす。

バンド巻きによる誘殺を実施している場合は、第1世代卵のふ化前（7月20日頃）に必ず除去する。

(12) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、西洋すもも（プルーン）、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(13) ヒメボクトウふ化幼虫の食入防止対策

ふ化幼虫が枝幹内部に食入するのを防止するため、主枝、亜主枝などの大枝や主幹に対し、「7月半ば」に、サムコルフロアブル10の5,000倍、エクシレルSE 5,000倍、テッパン液剤2,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍のいずれかを散布する。

(14) マメコバチの巣箱の回収と管理

近年、マメコバチの数が少ない園地が見られ、結実不良や果形のみだれの要因にもなっているので適切に管理する。

マメコバチの活動終了後の巣箱は7月上旬頃に回収し、家屋や小屋の軒下などにまとめて保管する。

この場合、ネズミの被害や雨水の跳ね返りを避けるため、地面からできるだけ離す。また、箱の積み重ねや雨除けにも配慮し、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

なお、巣箱回収時には、コナダニの発生状況を確認し、必要に応じて高温処理法などにより駆除する。

(15) ビターピット防止対策

ビターピットは7月の少雨や夏期の高温によって発生が多くなる。例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、発生しやすい天候が予想される場合は、カルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

なお、樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には葉害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(16) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(17) 徒長枝整理

樹冠内部に十分日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。

### 3 一般作業

- (1) 支柱入れ、枝吊り (2) 草刈り (3) わい性台樹の交差分枝処理

### 4 今後の作業予定 (7月22日～8月5日)

- (1) 見直し摘果 (2) 薬剤散布 (3) 腐らん病対策  
(4) クワコナカイガラムシ対策 (5) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り  
(6) 草刈り (7) ビターピット防止対策 (8) 苦土欠乏対策  
(9) 極早生種の収穫

青森県農薬危害防止運動展開中 (5月1日～8月31日) !

#### 《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/nouyaku/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

#### 《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

#### 《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年産までで廃止されることになっています。令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」または、「農業経営収入保険」への切り替えが必要です。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 農作業安全を心がけましょう 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

次回の発行は令和3年7月21日（水）の予定です。

**県民の皆さまへのお願い**  
**新型コロナウイルス感染拡大防止**



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>